

紀南教会瓦版

発行所
紀南キリスト教会
紀南教会瓦版
編集委員会
和歌山県田辺市
下屋敷町80
TEL/FAX
0739-25-1191



二〇一一年最後の瓦版になりました。大きな災害が次々と起こり大変な年となりました。私たちは、この事を一日も忘れることなく、被災された方々の日々の健康と復興を覚えて祈り、私たちに何が出来るかを考え支援を続けましょう。

編集委員一同

予約座席

先日、私にとって二度とないかもしれない経験をさせてもらいました。

今年十月初めの金曜日晩のことです。木曜、金曜と東京日本橋での仕事を終え私を含め三名で羽田空港から関西空港へある航空会社の最終便で帰路に付くことになっていました。搭乗ゲート近くの待合席で待っていると出発時刻二十分前位



から女性社員の方達が慌ただしく行き交うようになり、その内に私達乗客の方に呼び掛け始めました。それは、この最終便から明日の朝の便への変更に協力して貰えるなら(席を譲って貰えるなら)協力を支払いますというものでした。

出てきたのだろうか？その後始末に現場の社員の人も大変だなあ」という程度でした。私達は関空からは乗用車に同乗して帰宅予定でしたから三名一組の行動でないとだめです。そんなに多くの席が足りないわけはないだろうからこれには関係ないと考えていました。しかし出発時刻間際になつてより切羽詰まった声での協力呼び掛けになり、宿泊も航空会社側で用意するというものになりました。

この最終便で帰ったとしても帰宅できるのは日付が変わった頃だろうし、明日は土曜日で特段の予定は無いからもし三人一組での行動で良いのなら搭乗席を譲ってもらいたいという三人の内での話になり、この旨を航空会社に伝えました。

それから数十分、最終的に必要な座席が確保され最終便が離陸したのは予定時刻を三十分以上過ぎた午後九時半過ぎ、そして席を譲った私達三人の翌朝の便とその晩宿泊のホテルが決まり羽田空港を出たのは午後十時半を過ぎていました。何せ足りなかつた座席数は三、四十席にもなつていたのでした。

「こんなこと、よくあるの？」と私達の対応に当たってくれた女性社員の方に尋ねると、話はこうでした。

座席を予約されているお客様でも実際に搭乗されない場合もあるので座席予約システムのプログラム上で予め実際の座席数以上の予約を受けているのだそうです。(これは様々な条件を加味して計算しているのでしょう。多分。)従って、常にながしきの座席不足は起こりうるらしいのですが、この日はその計算が特

に必要座席が確保され最終便が離陸したのは予定時刻を三十分以上過ぎた午後九時半過ぎ、そして席を譲った私達三人の翌朝の便とその晩宿泊のホテルが決まり羽田空港を出たのは午後十時半を過ぎていました。何せ足りなかつた座席数は三、四十席にもなつていたのでした。

この最終便で帰ったとしても帰宅できるのは日付が変わった頃だろうし、明日は土曜日で特段の予定は無いからもし三人一組での行動で良いのなら搭乗席を譲ってもらいたいという三人の内での話になり、この旨を航空会社に伝えました。

それから数十分、最終的に必要な座席が確保され最終便が離陸したのは予定時刻を三十分以上過ぎた午後九時半過ぎ、そして席を譲った私達三人の翌朝の便とその晩宿泊のホテルが決まり羽田空港を出たのは午後十時半を過ぎていました。何せ足りなかつた座席数は三、四十席にもなつていたのでした。

この話を聞いてこんなことを思いました。座席指定の乗り物で座席数以上の切符を販売する、それも航空便の予約座席販売で行われているというのには私思ってもみなかつたことでした。乗客は予約できた座席は自分のために確保されたものと思うのではないのでしょうか。少なくとも私はそう思っていました。しかし最悪、誰も席を譲

つてくれなければ航空会社は新たに臨時便を飛ばすというのでしょうか。でも現実はそのようなことはないから当然のことのように搭乗率を上げるためにこのような予約システムを運用しているのでしょうか。半年に一度、協礼金と宿泊交通費で多額の費用を負担してでもその方が経営効率がいいということなのでしょう。航空会社にとっては予約座席とはそのようなもの(予約しても搭乗しないお客もいるのだから)なのだということ、例えば座席数以上の搭乗客になったとしても、それなりにお金で解決できるのだということをお金で解決できるのを実証してしまったことに今も少し複雑な思いです。

しょうゆの香りのイメージが焼き餅とかみたらし団子というの一般的なだが、祭りの屋台のにおいなどとユークなことを言ってくれる子もいる。それに最初はしょうゆやしょうゆもろみの味見なんてしてくれないかなあ、嫌がられるんじゃないかなあと不安だったが予想に反して、味見をするというのをとても喜んで飛びついてくれ目をきらきらさせながら誉めたようにきれいに味見をしてくれる子もいる。なかには「おか

また、最初はしょうゆの原料で「麹菌」という言葉に気がさせるために苦労したが、最近では事前に勉強してくれているのか「麹菌」とか「こうじかび」という言葉がすぐに登場してきてそればかり「麹菌」のもっと詳しい説明の要望が出たりして驚かされる。

託された命

紀南教会牧師 上山耕司

長女が先月、里帰り出産をした。私達にとっては初孫の誕生である。何かおかしな気分である。自分の子でなく、そうかといって他人の子でもない。どこかぎこちない。どうも客観的にみているところがある。やはり、子育てを終え、一通りその成長を見てきた者の見方であろうか。逆子で、帝王切開であった。娘は逆子がなおりますように体操をし

そんなこともあり、生まれるまで、自分の子以上に心配した。夢にまで出てきた

「託された命」と言っているように、胎内にあるときから、その命を形づくり、育んで

待った。オギャーと大きな産声をあげて、出てきた。肺に一杯空気を吸い込

で胎内の羊水の中に浮かんでいた胎児が、この世に出てきた途端に自力呼吸を始



めるのである。しかし、これが大変である。この子が成長し、父母を離れ、真に自立していくためには、本当に大変な世の中である。そのために、父母は力を合わせて、この子を育て、支えていかねばならない。この子は自分たちの子供であって、自分たちの子供ではない。神によって与えられ、託された大切な命である。両親は神の信頼を

受けて、世話を委ねられただけである。「わたしは植え、アポロは水を注いだ。しかし、成長させてくださったのは神です。ですから、大切なのは、植える者でも水を注ぐ者でもなく、成長させてくださった神です。」(コリント信徒への手紙一 3:16、17)これは教会と指導者のことを言っているのであるが、子供と親も同じである。子供は親の持ち

物ではない。神から託された大切な命である。親の使命はこの子供を心から愛し、その人格と適正を尊重し、神を信じる者となるように、全存在をもって示すことである。

次号は二〇一二年三月六日(第四日曜日)の予定です。お楽しみに。少し早いです。よいお年をお迎えください。

出前授業

五年程前から主人と小学校へしょうゆの出前授業に行っている。普通、年に四、五回だがなんと今年は今月十一月だけで六回も予定されている。

また、最初はしょうゆの原料で「麹菌」という言葉に気がさせるために苦労したが、最近では事前に勉強してくれているのか「麹菌」とか「こうじかび」という言葉がすぐに登場してきてそればかり「麹菌」のもっと詳しい説明の要望が出たりして驚かされる。

